

全員が夢中になって取り組む学習課題の設定

最近、授業を見てまわると、“穏やかに授業が進んでいる”場面にたくさん出会います。1月17日のアドバイザーと低学年部の各担任との懇談(事後研修)を、横で聞いていたところ、担任が話す子どもの姿や話題にしている内容、アドバイザーへの質問内容から、これまでの取り組みの成果を感じました。指導方法や指導技術は、個人により差はあるものの、総体として上がってきています。その成果が子どもの姿に現れていると思っています。

本校が、次に学校全体として目指すところは学力向上です。これまでも学力向上に向けて取り組んできたことは間違いありませんが、もっともっと意識を高く持って、取り組んでいきたいです。すべての子どもが、誰一人として取り残されることなく一時間の授業を夢中になって取り組めば、自ずと学力は上がってくるはずです。

その成果指標の一つを全国学調の結果としたい。学校全体で取り組み、全国学調の結果をもっと上げたい。日々の授業や、これまでの家庭学習の取り組みを進め、その結果として、全国学調の結果が上がったとしたい。

1時間の授業の中で、子どもたちを誰一人取り残すことなく、進める方法(授業方法、指導方法や指導技術)は概ね獲得できたと思っています。更なるステップアップのために取り組むべきは、適切な学習課題の設定です。子どもたちが授業に集中できないのは、子どもが悪いのではなく、教師の指導が悪いのではなく、設定した学習課題が担任(担当)している子どもたちにあっていないと捉えます。本時のねらいにあった学習課題で、子どもたちが夢中になって取り組む学習課題が必要です。繰り返します。本校が取り組むべきことは、各授業において、全員が夢中になって取り組む学習課題の設定です。

飽くなき向上心、常にチャレンジ精神で、共に頑張りましょう。

ちなみに、子どもたちへの指導において、6年間を見据えて行うことは、学力向上だけに限ったことではありません。各学年の担任は6年間を見通して、そのうちの1年間をあくまでという意識でもって取り組みたい。卒業時の6年生のあるべき姿は6年生の担任団にお任せというのではなく、6年間を見据えて自分が担当する学年を1年間取り組むという意識でもって取り組みたい。そういった意識を持つことで、何かしら子どもたちに指導するときの言葉掛けが、自ずとそこにつながっていると思います。小中一貫教育で考えるなら、6年間ではなく9年間です。この話題はここまでにします。なぜなら、私が言いたいこと、すなわち、「各授業において、全員が夢中になって取り組む学習課題の設定の必要性」が薄れてしまうからです。

改めて強調します。本校が次に取り組むべきことは、各授業において、全員が夢中になって取り組む学習課題の設定です。